



令和元年度 阿佐ヶ谷中学校 第2回学校運営協議会 会議録

日時 令和元年 6月 1日(土)

体育大会 参観

12時 10分より ランチミーティング

会場 阿佐ヶ谷中学校 校長室

出席者

《協議会委員》 石井 良典
岩間 功
大石 秀明
河村 正明
鈴木 政俊
武田 裕美
諸橋 記子
柳澤 正
横山 智彦
渡辺 昌輝
校長 小澤 雅人

《阿佐ヶ谷中学校事務局》
佐々木 啓之(副校長)
長谷川 祐子(嘱託事務)



小澤 今日午前中体育大会を見ていただき、ランチミーティングをしながら学校の活動についてのご意見をお聞きしたいと思っています。

体育大会や運動会で、どういった種目をやっているのかという調査が都からきています。

杉並区ではタワーやピラミッドなどの”組体操“は行っていません。小学校では行っているところもある”騎馬戦”は今後どうなるかわかりません。棒倒しもほとんどやらなくなりましたね。

「大ムカデも危険ではないか」という意見もあるようです。

河村 競技以外にも体育大会を運営する係の仕事が見られました。役割の認識ができていますね。見ていて気持ちがよかったです。

鈴木 こういう時に、行事を支えている子どもたちの力を見ることができますね。今は「なぜ掃除をやらせるのか?」という意見もあり、今は業者が行っています。以前、トイレ掃除は生徒がやっていました。宿題も最近は出さないでほしいという意見もあります。

このあと午後の競技もあります。参観してください。



今年のCS

右前から鈴木会長・河村さん・渡辺さん・武田さん、諸橋さん、
左前から小澤校長・石田さん・柳澤さん・岩間さん・横山さん・大石さん
後列 佐々木副校長・長谷川(事務局)

今日は2校時目の「働く人のお話を聞く会」を参観していただきました。CSからは鈴木さん、渡辺さん、大石さんにもお話をしていただきました。私と副校長も話をしました。

令和になって今年度初めての学校運営協議会です。今日から新しい委員として諸橋さんに入ってもらいます。

今年度の PTA 副会長の諸橋記子です。保護者は地域と学校をつなぐ大切な役割をしていると思います。一生懸命な姿を子どもたちに見せられたら良いと思っています。青少年委員をしています。

佐々木副校長は今年度、和泉学園から本校にお迎えしました。

井草中学校、和泉学園と CS ある学校にいました。今後ともよろしく願いいたします。

昨年は発足したてで、”これをやりたい!”というものがありませんでした。今年は何か目玉になるものを決めたいので、アイデアを早めに出していただきたい。

保護者会で配りました今年度の「学校経営計画」をご覧ください。学校要覧は5月1日の基準日に合わせて作りますので、まだ案となっています。

教育長からの要請で課題になっている”事業の見直し”をしなくてはなりません。新学習指導要領の本格実施とともに、働き方改革の実現に向けてもスクラップ&ビルドをやっていきます。年間計画など、皆さんにも検討していただきたい。学校がすべきもの・学校が関わるべきもの・外部や家庭に任せるもの等オリンピック・パラリンピックが終わるまでに整理していきたい。

小 澤 一昨年は中間考査を1回減らしました。今年度は水泳大会を授業の中に取り込む予定です。千代田区の麴町中学校では定期考査を廃止し、固定担任制をやめました。定期テストではなく、実力テストや単元テストに変える、学級を集団で見たいという取り組みです。

石 井 学級経営計画をざっと読んでみたのですが、教育委員会の要請で入っているものもありますね。施策としてやらざるを得ないものもありますが、杉並区は何をやるかというのを学校に選ばせてくれます。しかし、たくさん選べるのはよいのですが、ビルドするだけでスクラップするものがない。どんどんやる事が増えてしまうのです。阿佐中は地域の方がだいぶ入ってくださっていますが、先生がやること、子どもが関わる事、学年でやるのか…等今後は減らすものを考えていかななくてはなりません。

先生方がどういう意識なのか、聞いてみたいです。

小 澤 今年度から毎月1回定時退庁日を設けました。職員からは「できない」との意見もありましたが、それは今までやってこなかったからであって、何でも「例年通りに…」という事になりがちです。自分でスケジュール管理をする、生活にメリハリをつけるなど、なぜやるのかを考えていきたい。

鈴 木 例がないから新しいことをやらないのではなく、新しいことをやると負担が増えるから反対することが多いのではないですか?そこを変えていく必要がありますね。職場体験も5日から3日になりました。経験から手直しするのは良い事です。

大 石

民間企業だと前例踏襲は恥ずかしいという意識です。
この行事はやるのか、やらないのか。行事よりも他の事に集中した方が良いのではないかとということも考えていく必要があると思います。



小 澤 昨年より増えたところは、まず特別支援教室ができました。特別支援専門員が配置されたので、教員と連携をとる必要があります。

また、道徳が教科化され、その準備も新たに入ってきています。教育界としては、小学校では英語が教科化されました。今後、小学校も教科担任制への意向も議論がなされていくと思います。

こうしてやらなければならないことが増えていくので、仕事のスクラップ、アウトソーシング(外部委託)をどうやって行くかが大事だと思います。

大 石 天沼小では学校支援本部が遠足の実践から引率まで関わっています。仕事の切り出しですね。小学校では”学芸会・展覧会・合唱コンクール”をローテーションでやっている所もあります。6年間で2回ずつ経験できるという訳です。

小 澤 今後はCSから支援委員会に、そこからPTAやおやじの会に委託していくというのが阿佐ヶ谷でも始まっていくと思います。

文科省の考えはCSがその運営母体になってほしい、支援本部としてなってほしいということです。実行部隊になってもらいたいのです。このため、地方もCSの数が増えてきています。

柳 澤 そうなれば理想ですが、365日生徒と関わっている先生方と、月一回集まっている私たちとの考えは違うと思う。私も地域でいろいろな共同事業をやってきたが、「これだけをやっていればいいんだから」という人もいて、別のものをやったほうが良いのではと思うことはあるが、実現するのはなかなか難しい。教員の方々の意見を聞くことが大事です。

小 澤

鈴木

昨年度は教務主任と生活指導主任だけでしたが、今年度は教員とCSとの話し合いや意見交換の場を持つと思っています。

実働部隊と言われてはいますが、実際CSは腰が重いと思います。他のグループと共同で色々やってみると良いと思う。私も今日「働く人の話を聞く会」で話をしたのですが、負担はほとんどない。そんなに重くとらえずにやってみたら良いと思う。

今日も話の内容は、「お任せしますので自由にお話してください」と言っていますので、何を話してもらってもかまわないんですよ。

今年は生徒たちに職場体験先を探させたので数も多いです。

今年の教員の負担はどうですか？

教員がやっていた職場体験先への交渉も子供にやらせ、電話交渉も子どもたちでやります。職場体験の負担が減りました。

杉並で定着してきた理由は学校側だけでなく、企業の方も慣れてきたからだと思う。

小 澤 地域復興・ボランティア活動から始まり、人のために将来働く仕事…というのが原点でした。それがいつのまにか職業を選択するという趣旨のものにかわってしまった。

本来は職業を決めることではなく、「働くというのはこういう意味があるんだ!」ということに気付いてほしい。

大 石 子供の主体性が喚起出来て、よい取り組みですね。

柳 澤 職場体験後に子どもたちは変わりますか？

小 澤 行くことによって立ち居振る舞いが変わりますね。

柳 澤 「他人の飯を食ってこい」と昔は良くいいましたよ。

石 井 身だしなみ等、大人に対する考え方が変わるんだと思います。

大 石 子供たちは普段OFFの大人しか見ていないから…ONの大人を見せられますね。

小 澤 本当にその通りです。昭和のころは、身近に働いている人がたくさんいました。現在は会社勤めの人が増え、なかなか働いている人を見なくなった。

今日の「働く人の話を聞く会」では、地域の人に話をしてもらったので、子どもたちは身近に感じる事ができたと思います。CSの皆さんもぜひ1回はお話を聞かせてください。子どもに分かり易く話すというのはとても勉強になりますよ。将来的には、話を聞く会と職場体験を一本化してやっていきたいと思っています。

